

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	NU NU MAI
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	Post-Training Interventions for Transfer of Training		
論文審査担当者 Dissertation Committee Member	主 査 Committee Chair 准教授 高橋 与志 印 Seal		
	審査委員 Committee 教授 金子 慎治		
	審査委員 Committee 准教授 後藤 大策		
	審査委員 Committee 教授 柿中 真		
	審査委員 Committee 教授 築達 延征 (人間社会科学研究科)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>研修等で習得した知識・スキルを職場や生活で実際に利用する「研修の移転 (transfer of training)」は、学習効果の発現にとって不可欠といえる。このため、研修の移転を促進する目的で、研修直後を中心に目標設定 (goal setting) など各種の介入手法が試みられてきた。本論文は、こうした追加的介入が習得知識・スキルの活用に及ぼす効果や介入手法導入を促す情報提供への反応について、ミャンマーの社会人や学生対象のフィールド実験等の結果に基づいた実証分析を行っている。</p> <p>章別構成は以下の通りである。第 1 章で序論を述べた後、第 2 章では大学学部生を対象に、時間管理研修後の目標設定と逆戻り防止 (relapse prevention) 策がスキル活用にもたらす効果を分析したが、いずれも有意な結果は得られなかった。第 3 章では、社会人向けデジタル・マーケティング研修後に実施した実行意図 (implementation intention) の文書化が、研修内容の具体的な事業活動への利用に及ぼす正の効果を明らかにした。第 4 章では幹部向け経営大学院生を対象に、「職場での活用」と「活用及び金銭的利益」という 2 種類の肯定的情報への反応を分析し、理解度には差が見られなかったものの受容度は後者の方が高いことが示された。第 5 章は結論である。</p> <p>当該分野における貢献としては、よく用いられる介入手法 2 種類の効果比較 (第 2 章)、先行研究より長い間隔を置いた後での効果分析 (第 3 章)、費用対効果が高いとされる 2 種類の介入 (目標設定と実行意図の文書化) に関する情報への反応の特定 (第 4 章) が挙げられる。</p> <p>また本論文の主な内容の一部は、査読付き論文 1 篇として刊行済みである。他の主要な分析結果についても、査読付き論文として投稿済みまたは投稿準備を進めている。以上の審査の結果、本論文の著者は博士 (学術) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			